

伊勢・尾張大橋に対する意識調査

名城大学大学院 学生員 安井 勤
 名城大学大学院 学生員 片岡 貴裕
 名城大学 フェロー 久保 全弘

1. まえがき

今日、全長が15mを越える橋梁は全国で13万橋存在すると言われ、維持管理についての問題が年々重視されている。これらを踏まえて、本研究は橋梁に対する住民等の意識調査を目的とし、ここでは昭和8・9年に建設されてから70年あまり経過して架け替えの時期でもある国道1号線にかかる尾張・伊勢大橋を取り上げてアンケート調査を実施した。尾張大橋は、木曾川に架かり13連からなる下路ランガートラス橋とポニートラス橋1連からなっており、伊勢大橋は、揖斐・長良川に架かり15連からなる下路ランガートラス橋からなっている。

2. 調査方法

橋梁に対する評価は、一般住民と橋梁に詳しい土木関係者では、意識が異なると思われる。従って、すべてのアンケート調査に対して対象橋梁の近隣の一般住民（桑名側・長島側・弥富側）と桑名市、長島町、木曾岬町、弥富町の役所に勤務する公務員（土木関係者）と建設コンサルタント等の設計技術者の3つに区分して調査し比較・検討するものとする。

3. 結果と考察

(1) 回収結果

一般住民には、270の調査票を配布し、185の有効回答を得た。男女比は2:1と男性が多く、20代~50代まで広く分布しており、60代以上は少数である。公務員は115の調査票を配布し、101の有効回答を得た。男女比は9:1と男性が非常に多く、20代~40代まで広く分布しており、10代・50代~70代以上は少数である。設計技術者には、240の調査票を配布し、172の有効回答を得た。男女比は9:1と男性が非常に多く、20代~40代まで広く分布しており、50代以上は少数である。ここでのデータは年代・性別による傾向の検討は行わないとする。

(2) イメージ調査

形容語対¹⁾の評価グラフを図-1に示す。一般住民は、「親しみやすい」「周囲にとけ込んだ」といった意見が多い。このことから、対象橋梁と周辺環境が融和していると感じている人が多い傾向にあることがわかる。また公務員・設計技術者ともに、「古風な」「重々しい」といった意見が多い。このことから、対象橋梁の本体に対する評価に関する形容語に強い反応を示していることがわかる。

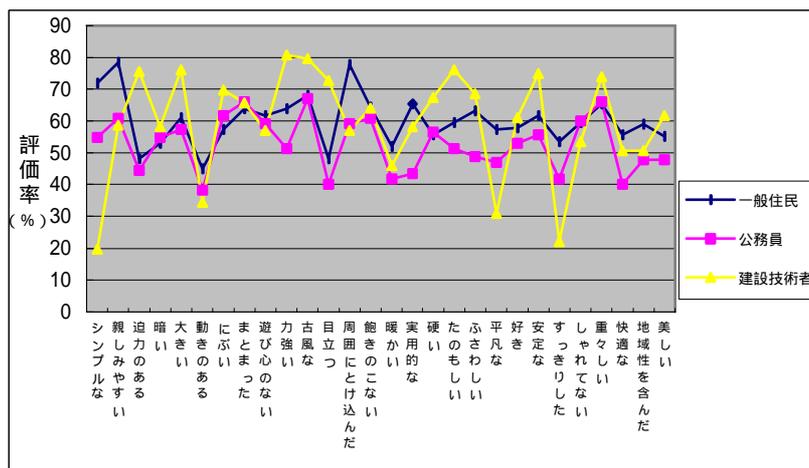


図-1 形容語対の評価グラフ

キーワード：アンケート調査、維持管理、古い橋、橋の保存

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501 名城大学理工学部, TEL: 052-832-1151 FAX: 052-832-1178

(3) 橋梁の機能性調査

機能性調査の結果を図-2に示す。これから、一般住民と公務員と設計技術者の全体の約8割が「交通の円滑性」を選択し、次いで「安全性」を選択した方が多い。この2つの項目は、現在の対象橋梁の問題点である「交通渋滞」「振動する」などの諸問題が影響されたものと考えられる。このことから、新設される対象橋梁に求められる機能は、現在の対象橋梁の問題点を改善させるような、機能が重要視されていることがわかる。

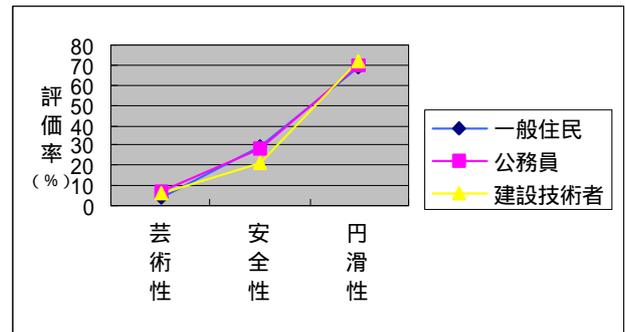


図-2 橋の機能性調査

(4) 対象橋梁の保存調査

図-3に、新設するにあたって、現在使用している橋梁の保存の仕方を調査した図を示す。一般住民は、「歩道橋として一部残す」の項目を選択した方が多い。これに次いで、「解体して捨てる」という順だが、公務員と設計技術者は、一般住民と逆の順番になっている。この結果から、一般住民は対象橋梁の老朽化の現状があまり理解されていないことが考えられる。それに対し、公務員と設計技術者は、対象橋梁の危険性が認識されていることが考えられる。

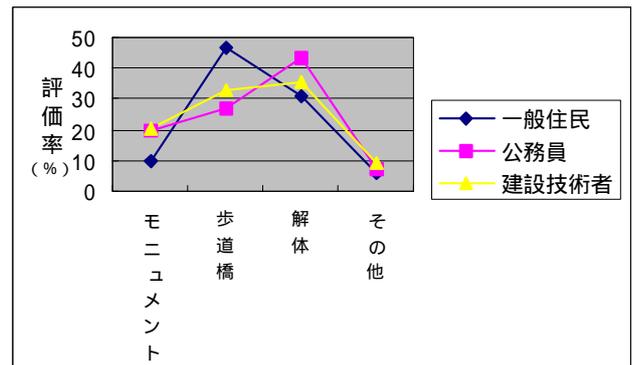


図-3 橋梁を新設するにあたって、現在使用している橋梁の保存の仕方をどうしますか

(5) 対象橋梁の維持管理調査

図-4をみると、一般住民の維持管理への関心の低さがうかがえる。公務員と設計技術者は、土木関係者なので関心がない方は少ない。この結果から、一般住民が維持管理問題について関心が低いのは、維持管理の情報が公開されていないことが考えられる。また、建設後は、十分な維持管理や補修がされるべきである事の認識が欠けていると思われる。

また、被調査者が対象橋梁における補修工事・維持管理問題について疑問に思っている意見を調査した。その結果、一般住民は、通行に対しての問題の改善や景観などを考慮した意見が多い。公務員と設計技術者は、低コスト・耐久性の優れた素材または工法、さらには大地震に備えた耐震設計にまで配慮された意見が多い。一般住民と公務員・設計技術者を比較してみると一般住民は、現状を意識した意見が多い。公務員と設計技術者は、将来の安全性を意識した意見が多いことがわかる。

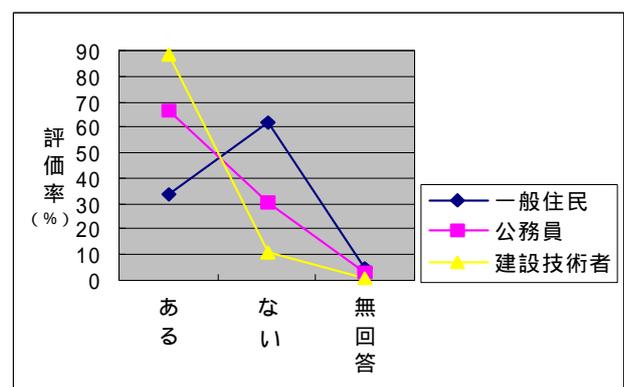


図-4 維持管理問題に関心を持ったことがありますか

4. あとがき

機能性調査と維持管理調査の共通して言えることとして、一般住民は現状の対象橋梁の問題点が考慮された意見が多く、公務員と設計技術者は将来をみこした安全性に配慮した意見が多い。

【参考文献】

1) 山本太郎, 清水茂: 長野市における橋梁の印象調査, 構造工学論文集, Vol. 46A, pp 423-430, 2000年3月.